

(1)



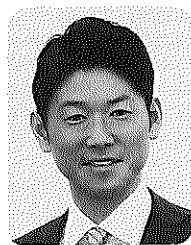
本校では第二学年を対象とし、「広島平和学習」を取り組んでいます。この取組は昭和六十年三月に平成の村宣言を探査して以降、「占冠村の歴史を絶対に繰り返さず核も戦争もない平和な社会を願い、生徒の大きな成長につながっています。(占冠村立占冠中学校)

No. 144 (令和5年8月1日)

## おもな内容

ページ  
1  
2  
4  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12

随想	1
上川教育センター開設50周年に当たって	2
上川教育研修センターの歩み	4
上川教育研修センター「50周年記念教育講演会」の紹介	6
研修講座寸描	7
研究室だより	8
研究協力校の紹介	9
受講後調査の結果	10
心に残る授業 その87	11
人事短信(研修センター所員紹介)	12



## 随想 開設五十周年に当たつて

上川教育研修センター組合

## 組合長 今 津 寛 介 介

上川教育研修センターが、今年度、開設五十周年を迎えることを心よりお喜び申し上げます。

当研修センターは、上川管内市町村が共同して研修及び研修に関する調査研究を行うことで、教職員の資質向上を図り、教育水準の向上を目指すとの目的の下、管内全ての市町村の総意により昭和四十八年七月に開所して以来、教職員の研修と研究の中核的な施設としての役割を果たしてまいりました。

半世紀にわたり、その時々の教育の動向や課題を踏まえながら発展的にその役割を果たしてきていることに敬意を表すと共に、管内教育の充実に多大な成果を上げることができたのは、ひとえに、構成市町村長をはじめ、各教育委員会並びに上川教育局など各関係機関の皆様の深い御理解と御支援の賜であり、ここに厚く感謝申し上げます。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響により充分な研修機会を確保することが難しかったり、調査研究にも苦労があつたところですが、この五十年の間にはそのようなさまざまな乗り越えなければならぬ「苦労」があつたと思ひます。そのような状況を乗り越えて刻んできた五十年間の歴史を、半世紀という区切りにとりまとめ、振り返ることは、今後の当研修センターの更なる充実・発展を期す

る上で誠に意義深いことと存じます。

少子高齢化や人口減少が進む一方で Society 5.0 と言われるように、AI がツールとして生活道具の一つとなるなど、情報コミュニケーションが基盤となる社会への変化が加速度的に進み、グローバル化も一層進展するとともに、地球規模の環境問題や格差の拡大や固定、ウクライナ侵攻など先行き不透明で予測困難な時代をを迎えています。

このような状況においては、課題に対して様々な人々とコミュニケーションをとりながらより良い解決ができる力を身につけることが必要とされており、そのような資質や能力を育むための教育への期待はますます大きいものとなっています。

教育の質的向上を図るためにも、教職員が学ぼうとする意欲をもち、学ぶことで自己実現を図ることから、当研修センターの果たす役割は大変重要であります。今後の展開に大いに期待をしております。

結びに、このたびの開設五十周年を節目として、これからも当研修センターが上川管内の教職員の研修・研究の中核的役割を担い、地域に根ざした教育活動推進の拠点となるよう関係者の皆様の一層の御支援と御協力をお願い申し上げまして、御挨拶いたします。



## セ ジ ナ ト ー 日 誌

四月三日 新任所員着任  
研修講座講師委嘱状交付式  
講座内容研究協議会

四月八日  
四月十二日  
四月二十一日

六月六日  
六月八日  
六月十二日  
六月十五日  
六月二十日  
六月二十二日  
六月二十九日

ICT 「タブレットPC入門」  
〔読書活動〕  
ICT 「表計算入門」  
〔特別支援教育①〕  
〔学級経営と教育相談〕

ICT 「校務でのタブレットPC活用」  
ICT 「校務のための表計算・クラウド活用」  
〔特別支援教育②〕  
ICT 「校務のための表計算」

七月一日  
七月二日  
七月三日  
七月二十四日  
七月二十六日  
七月二十七日  
七月二十八日  
七月二十九日  
七月三十日  
七月三十一日

※ 毎週火曜日 定例研究会議  
随时 研修講座講師打合せ会議

本校では、友達へのあこがれの気持ちを醸成し、子ども自身が自他のよさをメタ認知できる力を育てるため、様々な場面で計画的に異学年交流を実施しています。「一年生生活科」「一年生となかよくなろう」の学習では、校舎の様子を教えるため一年生と一年生が一緒に学校内を探検し、優しく丁寧に接する姿が多く見られました。これからも日常的な交流を通して、一年生にどう頼りがいのあるお兄さん、お姉さんとして活躍しようとすると心を育んでいきます。(旭川市立東五条小学校)

上川教育研修センター

開設五十周年に当たつて

上川教育研修センター組合議会

上川町長

佐藤芳治



上川教育研修センターが開設五十周年を迎えたことを心からお慶び申し上げます。これもひとえに、当センターの発展に尽くされた先人諸氏のご偉業であることに深く感謝を申し上げ、改めて敬意を表する次第でございます。当センターが設立された昭和四十年代後半は、高度

経済成長後の経済・社会活動の複雑・高度化に伴い、学校教育の質を上げる対応が求められた時代であります。そのような中、当センターは、管内の市町村が共同して行う教職員の研修並びに研修に関する調査研究を実施するための教育機関として設置され、今日まで半世紀の長きにわたり、教育研究・研修の諸事業を計画的に推進し、教職員の資質の向上を図り、上川管内の子供たちに質の高い教育を提供してまいりました。

今日、IT化に伴うグローバル化や新型コロナウイルス感染症の影響により地域DX（デジタルトランスフォーメーション）が進展するなど、社会が急速に変化を遂げており、これらの変化に対応した教育的重要性はますます高まっています。

このように社会の激しい変動や学校教育が抱える課題の複雑・多様化等の中で、昨年七月に教員免許更新制度が発展的に解消され、今まで以上に高度な専門職としての教員が求められることになり、先進的な教育研究や教職員研修の中心拠点として、当センターの役割はますます重要なものとなつてきております。

今後も引き続き、管内の市町村連携のもと現場で頑張る教職員をしっかりと支援し、教育現場の活性化が図られることをお一層期待するものであります。

開設五十周年を契機として、当センターの更なる充実・発展を期待するとともに、関係各位のご健康、ご多幸を心よりご祈念申し上げます。

設立の原点に立ち返り、一層ご尽力されることをお祈り申し上げお祝いの言葉と致します。

今、G-SATがまだないところでも、G-SATの実績をもとに、ICTの効率的な活用をサポートするなど、教職員の支援・研修の充実は、当センターにとって事業の大きな柱であり、こうした事業をとおして、日々の教育活動を担う教職員一人ひとりの力量や意識の向上が図られることが、当センターの大きな役割であると考えております。

これからも半世紀の実績と伝統を基盤にして、新しい教育の実現に向けて、地道な研究・運営に取り組み、上川教育の充実・発展に全力を傾けていただきますよう期待しております。

開設五十周年を節目として、当センターの研修・研究事業が上川の教育向上に貢献し、ますます発展することを心からご祈念いたします。

上川管内の教職員の資質向上を図り、新しい時代が要請する教育的ニーズを踏まえて、研修講座内容の改善・充実に努めて参りました。

教育の質を高めるためには、学校教育推進の直接の担い手である教職員の役割が極めて重要であり、その資質・能力の向上が欠かせません。社会の変化や技術の進歩に合わせて、より質の高い研修講座を提供することで、教育現場の発展に貢献したたしており、教職員にとって必要不可欠な存在となっております。

今年度も、教育の今日的課題や動向についての情報を提供するとともに、研究事業の充実に努め、学校現場の二一性に応じた各種研修講座を実施し、教職員の資質能力の総合的な向上に取り組んでまいりました。

令和二年の一月頃から始まつた新型コロナウイルス感染症により、三年以上にわたつて様々な感染症対策が行われ、学校現場においても学校ならではの人と人とのつながりや、ふれあいを通しての集団活動や体験的な活動が制限されました。

そのような中、各学校では健康・安全に配慮しながら、全ての子どもたちに学びを保障するところ一つとして、G-1へ導入されましたことに、心からお慶びを申し上げます。

当センターは昭和四十八年に設置され、教育の今日的課題や動向を受け、時代の変化とその時々の課題に対応し、上川管内の教職員の資質向上を図り、新しい時代が要請する教育的ニーズを踏まえて、研修講座内容の改善・充実に努めて参りました。

教育の質を高めるためには、学校教育推進の直接の担い手である教職員の役割が極めて重要であり、その資質・能力の向上が欠かせません。社会の変化や技術の進歩に合わせて、より質の高い研修講座を提供することで、教育現場の発展に貢献したたおり、教職員にとって必要不可欠な存在となっております。

今年度も、教育の今日的課題や動向についての情報を提供するとともに、研究事業の充実に努め、学校現場の二一性に応じた各種研修講座を実施し、教職員の資質能力の総合的な向上に取り組んでまいりました。

令和二年の一月頃から始まつた新型コロナウイルス感染症により、三年以上にわたつて様々な感染症対策が行われ、学校現場においても学校ならではの人と人とのつながりや、ふれあいを通しての集団活動や体験的な活動が制限されました。

確な目標に基づく指導と評価を通して組織的かつ計画的にカリキュラム・マネジメントが年計畫として実現されると捉え、現在・第十九次二か年計畫として「求められる資質・能力を育む学習指導の在り方」、指導と評価の一體化を目指す「学習評価」をテーマに、研究を精力的に進めています。

これらの研修や研究事業を通して、日々の教育活動を担う教職員一人一人の力量や意識の向上が図られることが当センターの大きな役割です。今後もこれまでの実績と伝統を基盤にして、地道な研究・運営に取り組み、上川教育の充実・発展に全力を傾けてまいります。

開設五十年の節目を迎えたが、今後とも、当センターの研修・研究事業が上川の教育向上に貢献するとともに、管内の教職員の熱意ある研修の受講と御協力、さらに関係各位の御指導、御助言を賜りますようお願い申し上げます。

「川教育研究センター」が開設五周年を迎えることができましたことは、関係者の各位の深い御理解と御支援がございました。心から敬意と感謝を表します。

当センターは昭和四十八年に多くの関係者の期待の中で開所され、その後これまで、教育の今日的課題や動向を踏まえるとともに、各学校や教職員の意見や要望を取り入れながら、研修講座の改善と充実に努めてまいりました。

令和の始まりとともに、「新学習指導要領の全面実施」「一学校における働き方改革」、「GIGAスクール構想」という学校教育にとって極めて重要な取組が大きく進展しつつあります。また、教員免許更新制度の改定の充実を通じて主体的・対話的で深い学びを実現する、新たな研修制度の実施に向け、発展的に解消されました。当センターでは、こうした国の動向や学校の課題を踏まえながら、教職員の資質能力の向上に向け、教職生涯を通じて学び続ける教師を支援する研修事業をより一層推進してまいります。

研究事業では、ICTをツールとして効果的に活用しながら、児童生徒の力を最大限に引き出すためには、明るい環境をつくることが重要であることは既往の研究から明らかになつた

上川管内教育委員会連合会  
教育長部会 会長  
中富良野町教育委員会 教育長

上川教育研修センター組合  
教育委員会 教育長

A black and white portrait of a middle-aged man with glasses, wearing a suit and tie. The image is framed by a dotted oval border.

鈴木晶

A black and white portrait of Dr. S. Venkateswaran, the Director of IIT Madras. He is a middle-aged man with dark hair, wearing glasses, a light-colored shirt, and a dark tie. The portrait is set against a dotted background.

野崎幸宏

(3)



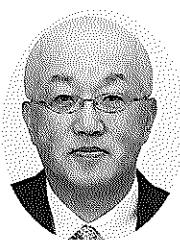
旭川市中学校長会 会長  
旭川市立中央中学校 校長

## 工 藤 亘



旭川市小学校長会 会長  
旭川市立永山南小学校 校長

## 小 野 敦 司



上川管内校長会 会長  
東川町立東川小学校 校長

## 南 部 和 紀

上川教育研修センターが開設五十周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

当センターが設立されたのは昭和四十八年であり、それ以降、教育の今日的課題や動向を受け、各学校や教職員の要望等を取り入れ、研修講座の内容の改善や発展にご尽力されてきました。

振り返りますと、私も当センターの講座を毎年受講させていただいております。また、講座の研究授業、発表、提言、助言なども経験させていただきました。

一緒に講座を担当する方々との事前の打合せ、資料づくり、発表原稿の作成等に費やした時間は、私にとってかけがえのないものでした。日々の学級経営、学年経営、学校経営に追われ、じっくり勉強する時間のなかつた私にとっては、資質・能力を高める絶好の機会となり、その実践が自分の成長に繋がっております。

そう考えると、当センターの事業は、教職員の育成の場であるとも言えます。

今日、教育関連法規の改正、第四期教育振興基本計画策定など一連の教育改革の流れを注視しながら、「社会に開かれた教育課程」及び「主体的・対話的で深い学び」の実現、「カリキュラム・マネジメント」の確立が求められています。また、国が進めるGIGAスクール構想の着実な推進により、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、一人一人に個別最適な学びや、協働的な学びを実現するなど、「令和の日本型学校教育」の構築も求められています。当センターは、それを踏まえて研修事業推進計画の基本方針を見直し、受講講座設定の工夫もされています。一例をあげれば、「学級経営と教育相談」講座では、今年度から発達障害や校則の見直し等が新たに盛り込まれた生徒指導提要改訂版の理解を深めることを重視しております。このように変化の激しい教育情勢に柔軟に対応していることに心から敬意を表します。

終わりになりますが、開設五十周年を節目として、当センターの研修・研究事業がより一層充実し、教職員の力量や意識の向上が図られることをご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

自らを高める研修のよりどころとして貴センターの開設五十周年を心からお慶び申し上げます。半世紀に渡り、教職員の学びの拠点として果たしてきました比肩するものはない役割に敬意と感謝を表したいと存じます。

思えば、教員としてのスタートから、各種講座では、運営者、講師、参加者の皆様には大変お世話になつて参りました。多くの講座に参加させていたいたり、講師を務めさせていたいたり、自らの教職の歩みと切つても切れないのが、上川教育研修センターです。

新採用の時に受講した社会科の講座の内容は今も記憶に残っています。当時は、低学年に社会科がありましたが、給食の調理員さんの仕事を調べる学習で、全校分のカレーライスの色塗りから導入する実践を講座で紹介していただきました。早速実践したところ、給食を「はやく、おいしく、たくさん作ることのできる秘密を探しに行こう」と子どもたちと盛り上がったことをよく憶えています。

さて、教員免許更新制度が発展的に解消され、令和四年八月三十一日に改正された「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」の「一背景及び趣旨」には、次のような記述があります。「児童生徒等の学びと教員等の学びは相似形となることが重要であり、個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現することは、児童生徒等の学びのみならず、教員等の学びにもまた求められており、児童生徒等の学びのロールモデルとなることが期待される。」

すなわち、「北海道教員育成指標」などを目標に、主体的に必要な学びを選び、自らを高めていくことが求められます。まさに、個のニーズに対応しているので「個別最適」であり、講師や参加者との「協働的な学び」も充実している。「研修講座」の重要性は、一層高まることがあります。貴センターの更なる充実・発展を御祈念申し上げます。

上川教育研修センターが開設五十周年を迎えたことに対しまして、心よりお慶び申し上げます。昭和四八年、「上川管内に市町村が共同して行う教職員等の研修並びに研修に関する調査研究を実施する教育機関として、上川教育研修センターを設置する」という趣旨のもと、貴センターは開設されました。以来、常に管内教育をリードする存在として、教職員の資質向上等に大いに寄与してきたことは特筆に値します。

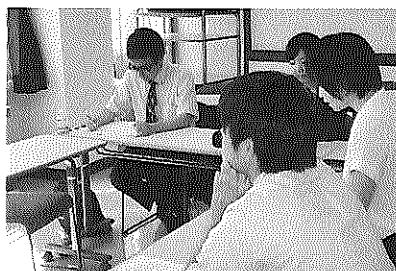
私事で恐縮ですが、一般受講生として、貴施設の研修講座を幾度か受講させていたたく機会がありました。講座を受講する中で、それまで我流に陥っていた様々なことに気付かされ、まさに「目から鱗」という言葉がぴったりな状況だったことを覚えていいます。また、平成十二年度「いじめ、不登校問題等」、平成十四年度「生活科指導」、平成十五年度「算数科指導」のそれぞれの講座で講師を務めさせていたいたこととは、大変名誉なことであり、非常に勉強になつたことが思い出されます。丁度そのころ（平成十五年度）は、私の恩師であります、大久保正義先生が所長を務められていた時期でもあり、開設三十年という節目の年だつたと記憶しています。

他方、私が所属する上川管内校長会は、平成八年から、貴センター内に一部屋をお借りして、事務所を置かせていただいています。弊会の各種会議や研修のほとんどを貴センターにて実施しており、いろいろな意味で活動の拠点となっています。この場をお借りして、貴センターに関係する全ての方々に、心より感謝とお礼を申し上げます。

結びになりますが、開設五十年を大きな節目として貴センターの研修・研究事業が、今後ますます充実・発展することを心より祈念して、お祝いの言葉とさせたいただきます。

# 上川教育研修センターの歩み

平成 25 年度  
「生徒指導講座」

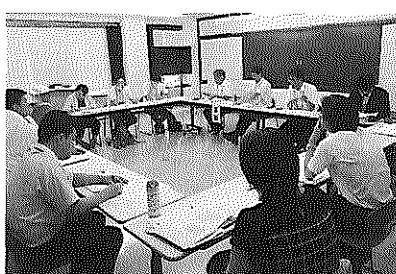


平成二十五年度は、センター開設四十周年記念教育講演会を開催した。星槎大学院教授・上越教育大学名誉教授の新井郁男氏をお迎えし、知識基盤社会における教育と学校・教師の役割について御講演いただいた。

教育課題研修では、「いじめ・不登校」の講座を開設する等、具体的な事例を基にチームとして指導の方針や対応を考える重要性について学ぶ機会とした。教科等指導研修では、講義（夏季休業中）と研究授業（二期）を分離開催とし、理論と実践の往還について内容の一層の充実に努めた。

平成二十六年度は、出前講座として生徒別支援教育・パソコン実技等、様々な二・十一講座に合わせて実施した。

平成 27 年度  
「学校力向上対策講座」



平成二十七年度は、講座の新設や内容の改編を行った。ミドルリーダー向けに「学校力向上対策」講座を新設。また、従来の講座「幼稚園教育」を「幼保小連携教育」に、「社会教育」を「学校・家庭・地域の連携」に変更した。さらに「タブレットPC講座」を入門・活用に分けて開設し、受講者のニーズに応えられるよう努めた。

平成 30 年度  
「外国語（英語）指導講座」



平成二十八、二十九年度は、「学校力向上対策」講座の二年次、三年次として、一年次の「学力向上」に続き「小中連携「キャリア教育」をテーマに研修を実施した。また、平成二十九年度は、千葉大学教育学部教授の天笠茂氏をお迎えし、次期

令和元年度は、ICT関連においても「小学校プログラミング教育」「タブレットPCを活用した協働学習」等変革に対する講座を開設した。

令和 3 年度  
「教育講演会」



令和二年度は、「ICTを活用した働き方改革講座」の新設、「パソコン実技研修」から「ICT実技研修」へ名称を変更した。また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、日程を半日とする等感染防止に配慮した講座の開設に努めるとともに、教育講演会については、初のオンライン開催とした。

また、多くの学校から、GIGAスクール構想により一人一台配備されたタブレット端末の活用について研修の要望があり、上川教育マイコン研究会の協力を得て、充実した内容の出前講座を実施することができた。

第十四次（平成二十四～二十六年度）  
「喫緊の課題やニーズに対応するために」

平成二十五年度は、センター開設四十周年記念教育講演会を開催した。星槎大学院教授・上越教育大学名誉教授の新井郁男氏をお迎えし、知識基盤社会における教育と学校・教師の役割について御講演いただいた。

第十五次（平成二十七～二十九年度）  
「新たな教育課題に対応するための講座内容の充実を目指して」

平成二十七年度は、講座の新設や内容の改編を行った。ミドルリーダー向けに「学校力向上対策」講座を新設。また、従

第十六次（平成三十～令和二年度）  
「新指導要領の円滑実施のための講座策定を目指して」

平成三十年度は、明治大学文学部教授の諸富祥彦氏をお迎えし、「主体的で対話的な道徳授業づくり」と題して問題解決型の考え方議論する道徳授業の在り方にについて御講演いただいた。また、新學習指導要領の実施に向け、「小学校外国語活動」を「外国語（英語）指導」講座に統合した。

令和三年度は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発令され、八月三十一日から十月十四日までの講座を中止とした。教育講演会については、ハイブリッドを開催とし、北海道教育大学旭川校学校臨床准教授の山中謙司氏をお迎えし、「授業を変える学習評価・資質・能力の育成を目指して」と題し御講演いただいた。

ICT実技研修講座は、令和三年二月に開館した旭川市ICTパークを利用し、多くの学校から、GIGAスクール構想により一人一台配備されたタブレット端末の活用について研修の要望があり、上川教育マイコン研究会の協力を得て、充実した内容の出前講座を実施することができた。

暫定措置（令和三年度）  
「コロナ禍での充実した研修を目指して」

令和4年度出前講座  
「ICTの活用」  
近文第1小学校



令和5年度  
「講座内容研究協議会」



令和六年一月には、センター開設五十年を記念して、國學院大學人間開発学部初等教育学科教授の田村学氏をお迎えし、ハイブリッド型の教育講演会を開催する。

令和四年度の講座内容研究協議会は、オンラインと集合のハイブリッド型による開催とした。

新型コロナウィルス感染症の蔓延状況を踏まえ、マスク着用や換気などの感染症対策を講じながら、予定した全ての講座を開催することができた。

上川管内教育研究会・旭川市教育研究会と連携した講座の開設、上川教育局・旭川市教育委員会指導主事への講座講師の依頼など、教職員等の資質・能力の総合的な向上を目指す講座運営に努めた。また、前年度に引き続き、ICTの活用について研修の要望が多く寄せられたことに加え、道徳科指導や特別支援教育、今日的な教育課題の研修を含め、出前講座を計二十四回実施した。

**暫定措置（令和4年度）**  
「コロナ禍での充実した研修を目指して」

**第十七次（令和5～6年度）**  
「資質・能力を育成する授業づくりを目指して」

令和三年度、令和四年度の二年間は、単年度計画で事業を進めてきたが、令和五年度からは第十七次として二か年計画で行うこととした。

特徴的な取組としては、十二年ぶり改訂の生徒指導提要について理解を深めるため、道研の地域連携共同企画支援研修と連携した「学級経営と教育相談」講座を開設した。また、「学校力向上対策」講座を「令和の日本型学校教育」に名称変更し、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指した授業改善の方法について理解を深める講座とした。「ICT活用」講座も「ICTと情報モラル」に講座名を改め、理論研修と授業研究を行うこととした。さらに、研究大会や研究団体との連携を図った講座の開設にも努めていく。

# 十年間の研究主題・研究協力校

○平成二十三～二十五年

「学力の確実な育成を図る指導と評価の在り方」

〔平成二十三年度〕

知新小 正和小 緑が丘小

当麻小 愛宕中

〔平成二十四年度〕

青雲小 永山小 北都中

〔平成二十五年度〕

神楽岡小 鷹栖北野小 神楽中

〔平成二十六～二十八年〕

「学び合いで確かな学力を育てる学習指導の在り方」

〔平成二十九年度〕

西御料地小 東川小 北門中

〔平成三十年度〕

比布中 朝日小 大町小 高台小

〔平成元年度〕

士別南中 愛宕東小 啓明小

〔令和二～三年〕

「主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導の在り方」

〔令和二～三年〕

向陵小 上川中

〔令和三年度〕

永山南中 陵雲小

〔令和四年度〕

「求められる資質・能力を育む学習指導の在り方」

〔令和四年度〕

高台小 広陵中

〔令和五年度〕

美瑛東小 北星中

「深い学びを実現する学習指導の在り方」

方

# 上川教育研修センター 開設50周年記念

## 教育講演会

**とき** 令和6年1月11日(木) 14:15~16:15  
(開講式 14:15 講演開始 14:30)

**ところ** 上川教育研修センター  
※Zoomによるオンライン配信も行います

### 演題

「令和の日本型学校教育の構築」  
～主体的、対話的で深い学びの実現に向けて～（仮）

### 講師

國學院大學人間開発部初等教育学科 教授  
元：文部科学省初等中等教育局視学官

たむらまなぶ  
田村 学氏



#### 【講師紹介】

公立・国立小学校教諭、教育委員会指導主事を歴任し、文部科学省・国立教育政策研究所教科調査官を経て、2015年4月より文部科学省初等中等教育局視学官を担当。2017年より現職。

#### 【主な著書】

- ・東洋館出版社  
「深い学び」  
「カリキュラム・マネジメント入門 『深い学び』の授業デザイン。学びをつなぐ7つのミッション。」
- ・明治図書出版  
「平成29年版 中学校新学習指導要領の展開 総合的な学習編」  
「平成29年版 小学校新学習指導要領の展開 総合的な学習編」  
「平成29年版 小学校新学習指導要領の展開 生活編」
- ・ぎょうせい  
「平成29年改訂 中学校教育課程実践講座 総合的な学習の時間」  
「平成29年改訂 小学校教育課程実践講座 総合的な学習の時間」

教育界には課題が山積しております。ぜひ「教育講演会」に御参加いただき、お一人お一人が抱える課題の解決に努めていただければと考えております。多数の皆様の御参加をお待ちしております。

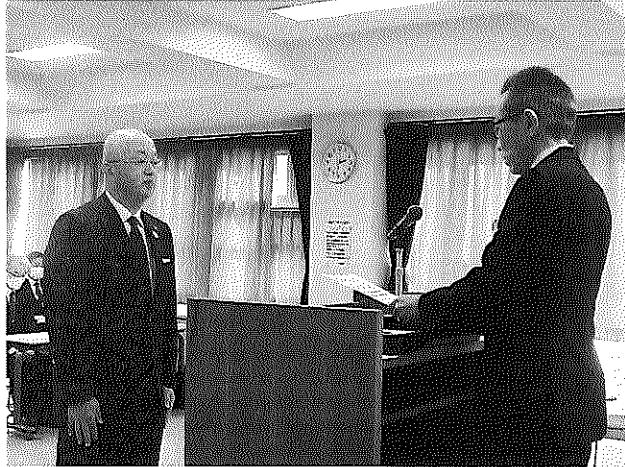
**Web サイトを御利用ください！**  
**<http://kami-cen.hs.plala.or.jp/>**

今年度の講座一覧や要項・申込書、研究紀要等がダウンロードでき、過去の研修講座の様子やセンターだよりを見ることもできます。また、センターで所蔵している資料名を閲覧できるので、お探しの資料があれば貸出しきることもできます。さらに、施設の使用や宿泊についても詳細を見るることができます。ぜひ、御活用ください。



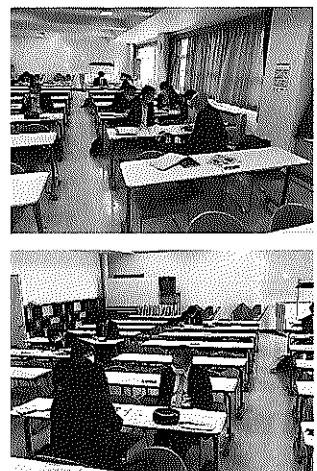
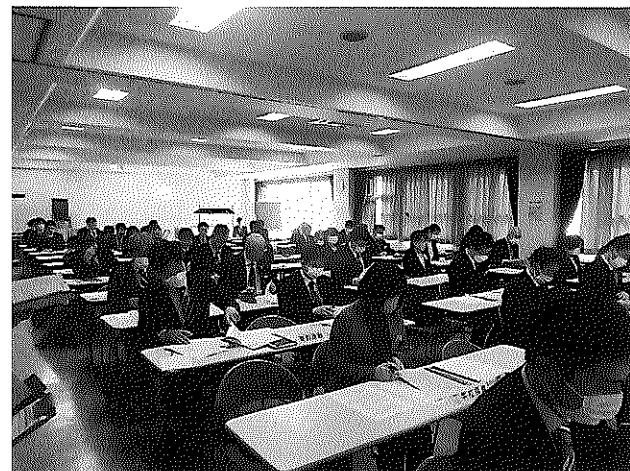
研修講座寸描

# 研修講座内容研究協議会



四月十二日、二十三講座の講師四十五名に御参加いただき、今年度の研修講座の講師委嘱状交付式及び講座内容研究協議会を開催しました。講師委嘱状交付式では、講師を代表して、南部和紀講師（東川小学校長）が上川教育研修センター組合教育委員会野崎幸宏教育長から、講師委嘱状を受け取りました。

その後の講座内容研究協議会では、教職全般を通じた教職員等の資質能力の総合的な向上を目指して、講座内容や日程等について具体的な話し合いが行われました。



しております。小中の連携を重視し、小中研究授業を取り入れた講座、情報モラルや特別支援教育など今日的な教育課題を踏まえた講座、演習・実技等を取り入れた講座など、研修内容を広く教育現場で活用できるよう考えております。皆様の受講をお待ちしております。

## ホットな夏、ホットな研修を！

研修講座の受講を希望される場合は各学校等に配付されております「研修講座開催要項」の申込書をお使いいただき、研修センターのFAX（24-2512）にお申込みください。

開催期日	研修講座名	会場	備考
8月2日（水）	学校事務実務	研修センター	
8月3日（木）	算数・数学科指導①	研修センター	2回目 9月27日（水）
8月4日（金）	外国語（英語）指導①	研修センター	2日目 10月6日（金）
8月7日（月）	社会科指導①	研修センター	2日目 10月19日（木）
8月8日（火）	令和の日本型学校教育	研修センター	
8月29日（火）	学校・家庭・地域の連携	研修センター	
8月31日（木）	道徳科指導②	研修センター	

## 上川教育研修センター 第19次研究2年次スタート

上川教育研修センターでは、第19次研究の2年次がスタートしました。第19次研究の成果と課題を踏まえ、「求められる資質・能力を育む学習指導の在り方」について、特に指導と評価の一体化に視点を向けて研究を行います。皆様から多くの御意見をいただきながら研究を進めてまいります。

6月には研究員所属校（旭川市立新富小学校）、9～10月には研究協力校（旭川市立北星中学校、美瑛町立美瑛東小学校）による授業実践を行います。そして、12月のセンター発表会（旭川市立愛宕中学校）では、研究員による授業実践を通し、第19次研究のまとめとします。各校に御案内させていただきますので、多くの皆様の御参観をよろしくお願ひいたします。

### 研究主題

## 求められる資質・能力を育む学習指導の在り方

～指導と評価の一体化を目指す学習評価～

### 求める児童生徒像

「知識・技能」を習得し、「思考力・判断力・表現力等」を高め、「学びに向かう力・人間性等」を涵養し、各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせながら深い学びに向かっていく児童生徒。

### 研究の仮説

身に付けさせるべき児童生徒の資質・能力が明確化された目標を基にした学習指導と、形成的な評価に重点を置いた適切な評価の「指導と評価の一体化」を図ることで、児童生徒の学習や教師による指導の改善等につなげ、組織的かつ計画的に教育活動の質が向上し、児童生徒の求められる資質・能力が育成されるであろう。

### 研究内容

○：第19次研究2年次の重点

#### 指導と評価の一体化

(1) 目標と評価の一体化

○単元目標の明確化

○目標と評価の位置付け

(2) 指導計画・評価計画

○単元構成の工夫

○形成的な評価（指導に生かす評価）

○一単位時間の学習過程

・総括的な評価（記録に残す評価）

・段階的な振り返りの設定

・主体的に学習に取り組む態度と知識・技能、思考・判断・表現の関係性

・パフォーマンス課題及び評価

(3) 個別最適な学び、協働的な学び

○個別最適な学びと個に応じた指導

○形成的な評価（指導に生かす評価）

○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

・総括的な評価（記録に残す評価）

・指導と評価の一体化の考え方による立った学習評価の改善

・主体的に学習に取り組む態度についての評価との関連

### I C Tの効果的な活用

#### I C T

- ・多様で大量の情報の収集、整理・分析、まとめ、表現

- ・児童生徒の思考の過程や結果の可視化

- ・情報の双方向性による瞬時の情報共有 等

研究室では、週に1回程度、上川教育研修センターにて研究会議を行い、上川管内の先生方にお伝えする研究内容を協議しております。



# \*.\*.\* 令和5年度「研究協力校の紹介」\*.\*.\*

## 美瑛町立美瑛東小学校



### 一 学校概要

校舎周辺には、陸上競技場、町民プール、スポーツセンター等を有する運動公園があり、町営球場も隣接しています。校地南側には、美瑛川が流れ、南東の丘の向こうに十勝岳連峰が望まれ、恵まれた環境の中になります。

令和五年度は、学級数十二学級（特支六含む）、児童数百九名です。明るく素直でのびのびとしており、人懐っこい児童が多い学校です。

### 二 教育目標

「夢をもち、未来を切り拓く自立した児童の育成」

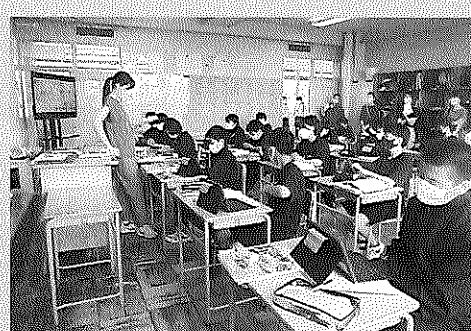
- すなおな子（基底）
- よく考える子（知）
- なかのよい子（徳）
- たくましい子（体）

### 三 年度の重点

年度の重点と研究主題を一本化し、「自ら進んで学び何度も挑戦する子どもの育成」を目指しています。

今年度は、特に、校内研究において、「振り返り」を切り口に、学ぶ意欲を生み出す授業と学習の調整の在り方を追究していきます。

## 旭川市立北星中学校



### 一 学校概要

旭川市北東部北星地区に位置し、一九四八年（昭和二十三年）に開校。今年で七十五周年を迎えた伝統ある学校です。校訓の「質実剛健」の基、多くの卒業生を輩出しています。現在の全校生徒数は二百二十七名、学級数は特支四学級を含め十一学級。明るく礼儀正しい生徒が多い学校です。

### 二 教育目標

「望は広く 日々にたのし

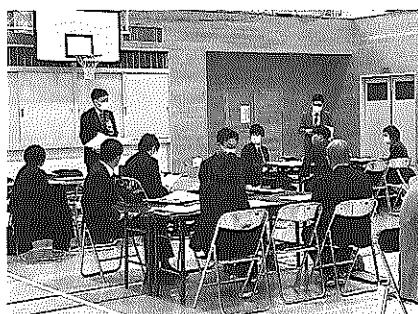
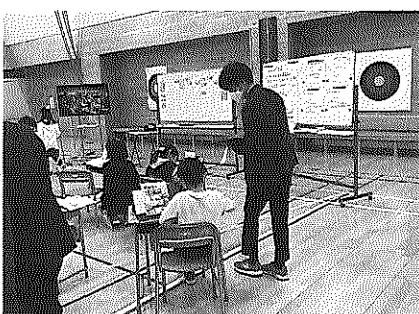
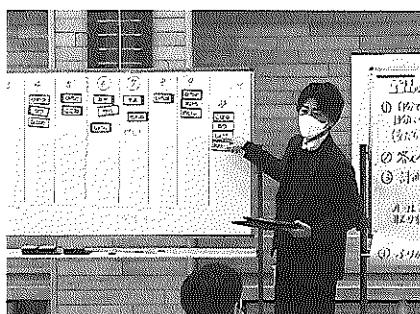
「真理を愛し つねにつとむ

「ともに鍛えんからだ 磨け精神

### 三 年度の重点

全校生徒・全教職員で「私も大切・あなたも大切」を合い言葉に「夢と志をもって、自他を尊重しながら主体的・対話的に学ぶ生徒の育成」を目指しています。  
 ①夢と志をもって、可能性に挑戦する行動力。②知識・技能を身につけ、共同して困難な問題に立ち向かう課題解決力。③感動を共有し、互いに認め合い、高め合うコミュニケーション能力。これら三つの資質・能力を存分に伸ばせるような教育活動を工夫し、実践しています。

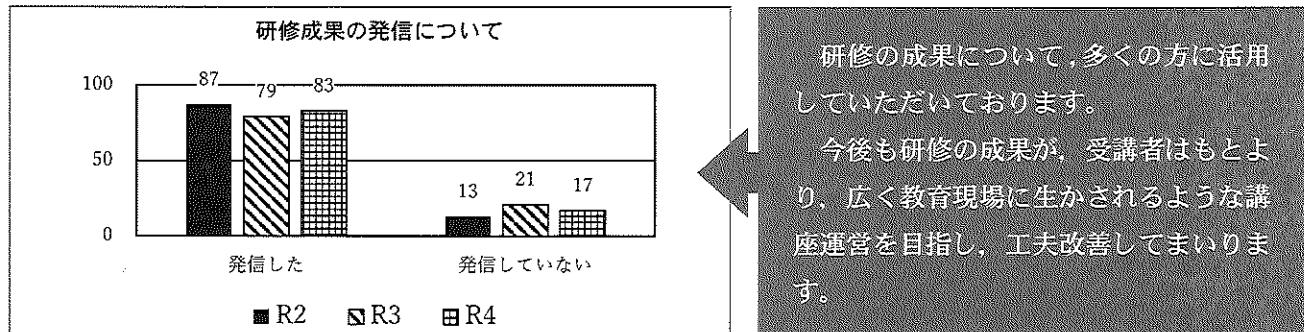
# \*.\*.\* 昨年度のセンター発表会の様子 \*.\*.\*



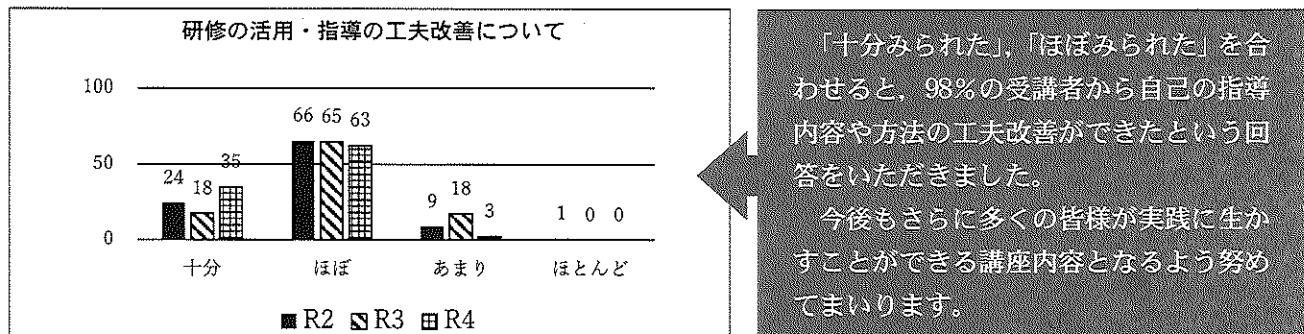
## 令和4年度 受講後調査の集計結果 ~御協力ありがとうございました~

当研修センターでは、研修講座の受講後2～3か月を目処に御回答いただく「受講後調査」を実施しました。お忙しい中にもかかわらず御協力をいただきまして、ありがとうございました。令和4年度の結果をまとめましたので、お知らせいたします。

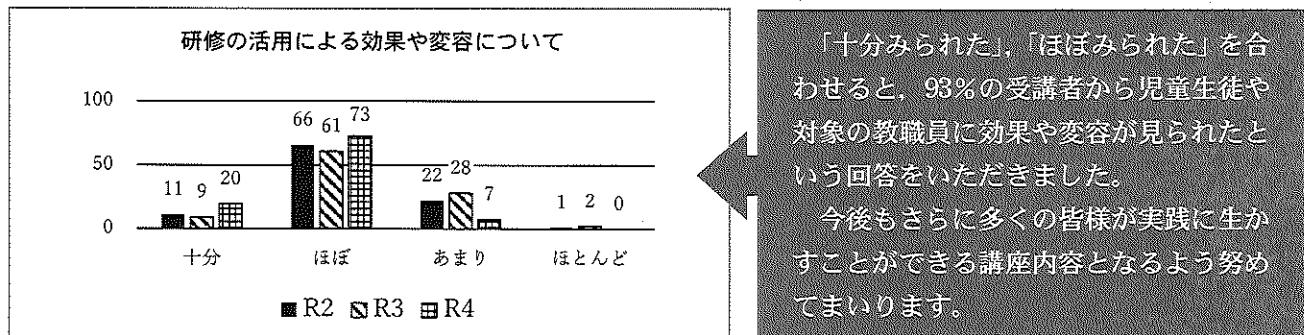
### 設問1 研修終了後、児童生徒や同僚教職員、他の学校の教職員等に研修成果を発信することができましたか。



### 設問2 研修終了後、自校や校外研修会等で、研修内容を活用し、自己の指導内容や方法の工夫改善ができたましたか。



### 設問3 研修内容を広げたり活用したりした結果、児童生徒や対象の教職員に効果や変容がみられましたか。



講座の成果を推し測り、より多くの受講される皆様の御意見を反映するため、当研修センターのWebサイトや右記コードから簡単にアクセスできるようにしております。  
今年度も2～3か月を目処に、当研修センターWebサイト上で、御回答ください。タブレットや携帯端末からも御回答いただけます。御協力をよろしくお願ひいたします。

#### 「受講後調査」コード

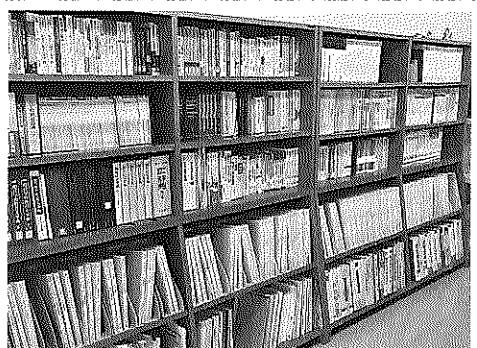


※この調査は、受講後、約2～3か月を目処に入力してください。  
※左のコードをスマートなどで読み取ると回答できます。

(google フォーム 外部リンク)

## 各種資料の御活用を！

当研修センターの1階には、各種教育雑誌や各出版社の教科書を、3階には、道内はもちろん全国各地の教育関係広報紙や研究紀要、教育雑誌のバックナンバーなどを保管しています。蔵書資料は貸出しも行っていますので、ぜひ御活用ください。なお、所蔵資料リストは当センターWebサイトからも御覧いただけます。



## 心に残る授業 その<sup>87</sup>



旭川市教育委員会  
教育指導課主査

柳澤 麻弥

いました。

外国語は、言語活動を通して、資質・能力を育成することが大切です。小学校高学年において外国語が教科化され、小学校段階から言語活動を繰り返し行い、児童が英語で「コミュニケーション」を図るために基礎を学ぶことにより、中学校入学段階で英語を使ってやり取りできることが増えてきているように感じています。

私が参観した心に残る授業は、入学して間もない中学校第一学年の外国語の授業です。

単元計画では、「話すこと」「やり取り」の領域を指導することを単元の目標としており、単元のゴールである「簡単な語句や文を用いて、ALTと互いの情報や考えなどを即興で伝え合う」ことの達成に向け、家庭での生活、将来の夢、部屋にあるものなど、生徒語活動が単元を通して位置付けられて

するか、どのように話せばうまく伝えられるかなど、課題意識を持ちながら友達と対話する中で、「なるほど、そうやって質問すればよいのか。」「伝わったよかつた！」など、英語によるコミュニケーションの楽しさを味わったり、自信を深めたりする姿が見られました。

中学校第一学年の六月に行われた授業でしたが、この時期に、こんなにも英語を使つたやり取りができるものなのかと感心しました。小学校から外国語科で「聞くこと」「話すこと」などの言語活動が行われ、小学校での指導を基に、中学校において、日常的に英語による言語活動が設定された授業が行われている成果であると感じました。

生徒が英語を用いて楽しそうに生き生きとやり取りする姿が印象的で、魅力にあふれる授業として心に残っています。

## 令和5年度の「出前講座」について

本年度の「出前講座」につきましては、多くの学校から申し込みをいただきました。おかげさまをもちまして、予定していた講座数に達し、5月29日に申し込みを終了させていただいてあります。教科指導をはじめ、生徒指導・特別支援教育・今日的な教育課題・ICTの活用・各種実技指導など、各学校の校内研修や教育研究団体の様々なニーズに合わせて、選りすぐりの講師を派遣しています。

来年度も多くの申し込みをお待ちしています。

### 【講座内容例】

教科等指導（国、算等）	指導計画、評価、言語活動等、校内研究にかかる事項等
ICT実技	タブレットPC活用、ICTの活用、メディアリテラシー等
各種実技指導	器械運動（体育）、図工（木版画）、毛筆（書写）等
特別支援教育	各種発達障害の理解、個別の支援計画、交流および共同学習等
生徒指導	構成的グループエンカウンター、教育相談、カウンセリング等
今日的な教育課題	学力向上、学習指導要領、幼保小連携、小中連携等

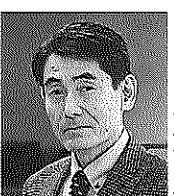
## 上川教育研修センター所員紹介

新任

副所長  
石前 聖香ICT指導員  
久須美克典  
(旭川市立緑が丘中)所長  
伊東 義晃指導員(旭川市立齊雲小)  
平井 佐知研究員(旭川市立愛宕中)  
片山 泉研究員(旭川市立新富小)  
因幡 明浩

教育の「不易と流行」の視点を踏まえた多様な学びが皆様のお役に立てるよう願い、センター運営に力を尽くします。

先生方の研修が実り多く有意義なものになりますよう努めてまいります。よろしくお願ひいたします。

研究事業部長  
川村 貴弘  
(旭川市立永山西小)研究員  
荒木 健地  
(旭川市立北門中)事務係  
笹谷 青子

教育の「不易と流行」の視点を踏まえた多様な学びが皆様のお役に立てるよう願い、センター運営に力を尽くします。

令和の教育で必要とされる授業づくりが分かりやすく整理された研究を目指します。どうぞよろしくお願いいたします。

上川の先生方の役に立つ、『明日使える実践』を積み重ねたいです。よろしくお願ひいたします。

指導員  
野尻 佳世  
(旭川市立愛宕中)研究員  
河野 翼  
(旭川市立朝日小)

一般研修講座と出前講座を担当させていただきます。尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

上川管内の学校や先生方のお役に立てるよう、研究・発信に努めています。どうぞよろしくお願いいたします。

発行日	令和五年八月一日
上川教育研修センター	〒〇七〇-〇〇三六
旭川市六条通四丁目	電話(〇一六六二四二五〇一)
責任者	伊東義晃
印刷所	有限会社岡本印刷
※この用紙は再生紙(古紙70%)を使用しています。	